

Script Présentation

こんにちは。

グルノーブルアルプ大学の言語学部のアレクシラドレです。これから、日本語の挨拶における定型表現と「*pragmatème*」について発表させていただきます。よろしくお願いいたします。

Slide 1

このスライドは、この発表のがいよう、流れが書いてあります。まずはじめに、*pragmatème*のコンセプトを明確にいたします。その次に、挨拶という言語行為の定義をはっきりとさせます。その後、語用論的アプローチについてご説明します。そして、私の研究についてお話しします。最後に、結論を述べたいと思います。

では、この発表を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

Slide 2

Pragmatème という言語学的コンセプトは、Igor Mel'cukという言語学者によって作られました。

そして、この*Pragmatème*は定型表現のため、発話の形は決まりきっており、その形が変わることはほとんどありません。そのため、発話者は、この定型表現を何も考えず、無意識的に使います。

Mel'cukが言うように *Pragmatème* というコンセプトには三つの特徴があります。一つ目は文脈に依存すること。二つ目は儀礼的になるまでのプロセスがあること。三つ目はこの表現の形式がバリエーションをほとんど生まないことです。

Slide 3

今から挨拶という言語行為について説明します。挨拶は会話を適切に行うために、必要不可欠な行為です。会話の最初のきっかけとしても、重要なものです。挨拶というこの言語行為はしばしば定型表現であり、日々の生活の中で儀礼的に用いられます。日常会話において多用されますが、この挨拶がないとコミュニケーションにおいて困ってしまいます。

挨拶という言語行為は、相手との社会的、または心理的距離感やその人間関係によって形が変わります。また、その会話の目的や、それらの言語が用いられる地域、国などによっても変化します。

基本的に、挨拶をせずに会話を始めると、相手に対して失礼な印象を与えます。

Goffmanによると、言語行為には二つの形があります。一つ目は*rituel négatif*、つまり「儀礼」のことです。自分から会話を始める時、自分が相手のテリトリーに入り、邪魔になる可能性があります。その無礼を修復するために挨拶という言語行為を行うのです。例えば、部長の事務所に入る時、突然話したいことから話すのではなく、「失礼します」や「お時間よろしいでしょうか」などと言ってから会話を始めます。この時、「失礼します」などの挨拶は、相手にとって自分は害がないということを示す意味で用いられ、形式的、儀礼的な言語行為と言えます。

二つ目の言語行為は*Rituel positif*です。*Rituel positif*つまり、挨拶のことです。*Rituel positif*、挨拶は相手と会話を始めるきっかけを作ります。会話をしたいという意思表示です。また、先生と学生、上司と部下、家族同士など、社会的な関係性を示すものにもなります。例えば、先生と会う時に、「おはようございます」と言います。何気ない一言です

が、この表現は、自分と先生の社会的上下関係や、目上の人に対する敬意などを示しています。

Slide4

言語学の中に、語用論という分野があります。語用論とは、簡単にいうと、言葉とその言葉が使われる文脈の関係性を研究する学問です。発話には、話者と聞き手の両方に影響があります。例えば、私が相手に「あそこのふくろを取ってもらってもいいですか」と言ったとします。すると、相手はその袋を取るでしょう。相手は私が言ったことを聞いて、反応し、私の要求が叶います。このシンプルな言葉で、私が相手に行為をさせました。その会話の瞬間には、語用論的要素が多く関係しています。

私は、会話における発話の文脈に関して興味があります。誰が、いつ、どこで、どうしてなどの文脈やその特徴を分析します。

また、語用論の会話分析において、言語形式以外にも色々な興味があります。例えば、会話中のジェスチャーや視線、話者間の距離や表情などです。話者と文脈については色々な研究の余地があります。そして、発話の音声についても興味がありますが、プロソディーやイントネーション、声の高さなどに関しても色々研究されています。

Slide 5

今から少し自分の研究発表をさせていただきます。私の一番の目標は定型表現を分析して、どうやってこの慣用表現が社会言語的な言語行為となるのか、その過程やそのパターンを明らかにすることです。また、その表現がどんな発話外の情報を含んでいるのかを研究します。例えば、丁寧形や敬語、謙譲語を使う時に上下関係の意味があります。また、人間関係の情報もあります。

そして、私の研究手法には語用論と意味論と統語論の分析手法を用います。

なお、私の研究が対象言語の手法においても有効なので、日本語とフランス語の表現を比べます。このように、フランス語と日本語における共通項と相違点を明確化します。

Slide 6

私の研究のためにバイリンガル・コーパスを作りました。このバイリンガル コーパスは村上春樹の6冊の小説に基づいていて、およそ900,000の言葉が入っています。フランス語と日本語の両方の言語で作られています。このコーパスを作るためにフランス語と日本語のアライメントソフトを使用しました。

また、そのフランス語と日本語のコーパスをアラインメントしたら、インターネット上で、そのコーパスをJibikiと言うウェブサイトでアップロードしました。このように、そのウェブサイトのおかげで、私のコーパスの中のフランス語や日本語のデータを検索して調べることができます。

Slide 8

こちらは、私のコーパスのインターフェースです。上のほうに調べたいキーワードを入れたら、そのキーワードが含まれる言葉が全て現れるようになっています。

Slide 9

例えば、このコーパスで「おはよう」という言葉を調べたら、下のほうに検索結果が現れます。その結果の左のほうはフランス語で、右の方は日本語です。その結果は、アライメントのおかげで、フランス語と日本語の両方を、同じタイミングで分析することができます。

Slide 10

今から、私の昨年の研究結果を発表させていただきます。まず一つ目の研究内容としては、儀礼的定型表現の中の統語論的なパターンの発見があります。そのパターンは数学の方程式のように見ることもできます。(丁寧形の接頭辞「お」+文の内容+-ます形)。こちらのスライドの例を見てください。「お先に失礼します」という定型表現と「おはようございます」という挨拶表現がそのパターンに従っています。

また、2つ目の研究内容はこの表現は文脈に依存するということです。ある一定の文脈のもとでは、例えば挨拶する文脈、その文脈では絶対に挨拶の表現が現れます。挨拶の表現は挨拶の文脈でのみ使え、成り立ちます。もし他の表現を使ったら、例えば「申し訳ございません」などの迷惑の表現のように、そのコンテキストに合わない表現を使ったら、コミュニケーションが成立しません。

三つ目の研究内容は、その慣用表現には、上下関係や人間関係の影響があります。部長と会ったらたら、おはようございますという丁寧な挨拶の表現を使います。しかし、友達や家族と会いましたら「おはよう」や「よっ!」が使えます。

そして、この研究の最後の結果です。日常会話の定型表現には話者の立場、そして関係性とテリトリーの情報が含まれています。例えば、ただいまとおかえりなさいと言う日常会話の定型表現を使ったとき、「ただいまー」と言った話者が家族のテリトリーに入ると言う意味があります。そして「お帰りなさい」と言った話者は「ただいま」と言った相手が家族のサークルに帰ったことを認めるという意味になります。

Slide 11

今から、第二言語教授法の研究展望を発表させていただきます。まず、私の研究は、対照言語からのアプローチで、語用論的表現の分析をします。その研究成果は、第二言語を教える際の教授法に生かすことができます。外国の言葉を学ぶのは、その単語や文法を学ぶだけではありません。語用論的要素を良く理解して、適切な文脈で適切な言葉を使えて初めて良いコミュニケーションとなります。そのために、語用論的表現をどんな時に使うのか、その条件などを明らかにしたいと考えています。

そして、外国語を学ぶにあたって、自然的な日常会話へのアプローチは重要なことと言えます。また、その定型表現覚えるのではなく、その定型表現の使い方や、話者にある影響も、生徒に教えなければならないと思います。

また、フランス人と日本人の生徒のために、適切な教科書やテキストの内容やメソッドなどを作らなければなりません。このようにして、フランス語と日本語の社会言語的、または語用論的特徴を教えるべきだと思います。

Slide 12

最後に結論です。この発表の大きなポイントは3つあります。1つは、Pragmatemeというコンセプトが、日本語の語用論的表現を明確化するために、適切なコンセプトだということです。

そして、日本語のPragmatemeは複雑ですが豊かな構造があります。実に、そのタイプの表現がいろいろな心意的、または社会的な情報を含んでいます。

また、このような表現の分析が、第二言語習得の教授法において有効な手立てとなる可能性があると思います。

Slide 13

以上で発表を終わります。ご静聴ありがとうございました

Slide14

何か質問がありましたら、お答えしたいと思います。宜しくお願いします。